

大型のスプタに関する報告

国井秀伸・中村加代子

(島根大学理学部)

昨年度、著者らは島根県松江市とその近郊にあるため池45ヶ所と7河川で、水生植物相と水質の調査を行った。この調査は、水圏の富栄養化や汚濁が水生植物の多様性に及ぼす影響をみるために行ったものであり、現在も継続中である。詳しい調査結果はいずれ発表する予定であり、ここでは、この調査中にみられた大型のスプタについて簡単に報告する。

スプタの大きさについては、図鑑などに葉の長さは10-30cmと書かれており(大滝、1974; 大井、1975; 大滝・石戸、1980; 北村ら、1981)、今回の調査でスプタの出現した他の水体(6ヶ所)でみられたものも、すべてこの範囲にあった。しかし、スプタは環境によって生育状態が異なり、葉はしばしば伸長すると言われる(大滝、1974; 大井、1975)。以下に報告するスプタは葉を伸長して大型化した一例である。

図1に示す大型のスプタを初めて水中に見た時、リボン状の葉を水面に向かって真直ぐに伸している外部形態か

ら、セキショウモと見まちがえたほどであった。このスプタの生育していた池では、水深の浅い所に10-30cmの普通の大きさのものが生え、1m以深の所に90cmを越える大型のものが生えていた(図のものは12月13日に採集したもので、すでに根や葉がぐさりかけていて、やや小型となっている)。

採集場所は標高約150mの高台(松江市佐草町)にある小さな池(囲りは果樹園)で、スプタの他、ヒツジグサ、フトヒルムシロ、タヌキモ、ヤリハリイ(沈水型)、カンガレイ(沈水型)、ニッポソイヌノヒゲが見られた。参考のため表1に池

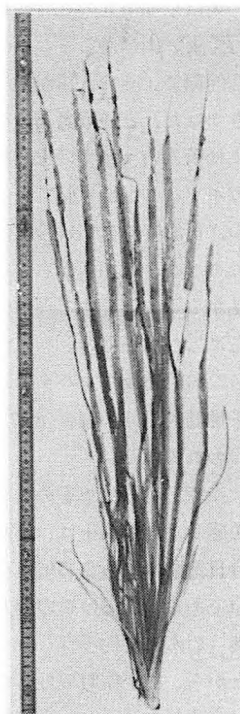


図1 長さ60cmを越える大型のスプタ(1984年12月13日撮影)

表1 大型のスプタが生育していた池の表層水の水質、他(測定日は1984年10月11日)

最大深度 (m)	1.7
透明度 (m)	1.7 <
pH	4.5
電気伝導度 (μmho)	110
COD (KMnO ₄ mg/l)	7.43
PO ₄ -P (mg/l)	nil
クロロフィル a ($\mu\text{g/l}$)	4.45
K (ppm)	0.58
Na (ppm)	2.03
Ca (ppm)	5.15
Mg (ppm)	4.20
Mn (ppm)	0.72
Fe (ppm)	nil

測定方法は、透明度は25cmセッキ板、pHは比色法、電気伝導度は電導度計(YSI-MODEL 33)、CODはアルカリ30分法、PO₄-Pはモリブデンブルー法、K以下は原子吸光法および炎光度法(HITACHI-170-40)によった。

の水質について記した。水色は極めて透明で、水底がボート上からよく観察できるほどであった。

栄養塩、水中照度、波浪、底質などスプタの成長に影響を与える環境要因はいくつも考えられる。いつかこの問題の解明に着手しようと考えているので、スプタに関する文献などお教え願いたい。

(今回の調査ではこの大型のスプタのほか、まれにしか見られないミズニラをこのスプタの生えていた近くのため池で発見したことをここに付記しておく。)

引用文献

- 北村四郎・村田源・小山鉄夫(1981)原色日本植物図鑑 保育社 465頁
 大井次三郎(1975)日本植物誌 顕花編 至文堂 1582頁
 大滝末男(1974)水草の観察と研究 ニューサイエンス社 137頁
 大滝末男・石戸忠(1980)日本水生植物図鑑 北隆館 318頁